

令和5年7月31日

豊田市議会議長 木 本 文 也 様

教育社会委員長

鈴 木 孝 英



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、豊田市議会委員会条例第37条第1項の規定により報告書を提出します。

記

- 1 派遣期間 令和5年7月25日（火）から同月27日（木）まで
- 2 派遣場所 25日（火）…高知県高知市／
及び内容 こうちこどもファンド
26日（水）…高知県／
スポーツツーリズムの取組
27日（木）…大阪府守口市／
部活動の地域移行
- 3 派遣委員 委員長 鈴木 孝英
副委員長 深津 秀仁
委員 中村 孝浩 北川 敏崇 杉本 寛文
石川 嘉仁 中村 竹夫 西田ひさよ
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 随行者 近藤 啓史 下川原沙紀

視察報告書【1】

委員会名	教育社会委員会	委員名	鈴木孝英
視察日時	令和5年7月25日（火）午後1時45分～午後3時15分		
視察先・概要	高知県高知市 人口：318,713人 面積：309k㎡ ※人口はR5.6.1現在		
視察内容	こうちこどもファンド		
選定理由	高知市では、子どもたちが自主的に提案・行動するまちづくり活動への助成を通して、自分たちが普段生活しているまちを見直す機会を提供するとともに、自ら提案する力と実行する力を育てることを目的に平成24年に「こうちこどもファンド」を設立している。本市においても豊田市子ども条例を制定し、子どもにやさしいまちづくりを推進しているところであるが、高知市の取組を調査することで、本市の未来を担う子どもたちがさらに幸せに暮らすことができる地域社会の実現に資するため選定した。		
豊田市の現状と課題	本市では、「豊田市子ども条例」の制定や子どもの権利条約フォーラム2023を開催するなど、子どもの権利に関する取組が行われているが、さらなる子どもの権利の保障のために、とどまることなく新たな取組を検討することが必要である。		
視察概要	こうちこどもファンドの取組として、設立経緯、基金の仕組み、運営や効果などについて説明を受けた。「子どもを中心としたまちづくりの活性化」、「将来のまちづくりを担う人材の育成」、「こどもにやさしいまちの実現」、の3つを目的として、立案から審査まで、子どもが主体的に活動する上で、おとなの関わり方や、運営に係るルールについての説明を受けた。		
評価とその理由	「子どもを中心としたまちづくりの活性化」、「将来のまちづくりを担う人材の育成」、「こどもにやさしいまちの実現」、といった目的を明確にしたうえで、20歳以上のサポート役の配置といった応募資格や助成内容、審査や活動に対する配慮等が行われていることを評価する。一方で、課題としては幅広く認知されていないこともあり、ウェブモニターアンケートでは「知らない」との回答が9割であったことは課題であるといえる。		
本市に反映できること	豊田市の「わくわく事業」が類似している。「わくわく事業」の枠組みの中で、子どもたちが主体的に企画立案・審査を行うというカリキュラムを取り入れることは可能と考える。 また、ファンド原資においても市役所の積立てと併せて企業や市民にも呼び掛け寄付金を集め予算を確保している点が評価できる。		
その他 （意見・課題など）	既に本市で実施されている豊田市の「わくわく事業」の中で、子どもたちが参加しているものも多くあるが、高知市の狙う目的とは一致しているわけではない。子ども向けに新たに実施するとなると補助内容の変更や審査会でのルールの改正が必要になることが課題と捉えている。		

視察報告書【2】

委員会名	教育社会委員会	委員名	鈴木孝英
視察日時	令和5年7月26日（水）午後1時30分～午後3時		
視察先・概要	高知県 人口：668,671人 面積：7,103.93k㎡ ※人口はR5.6.1現在		
視察内容	スポーツツーリズムの取組		
選定理由	高知県では、新たな観光需要の掘り起こしにつなげるため、地域の豊かな自然を生かしたアウトドアスポーツと観光を組み合わせた「スポーツツーリズム」を推進している。本市も豊かな自然や日本有数の大規模スポーツ施設を有するなど、スポーツツーリズムを推進するためのポテンシャルは非常に高い状況であることから、高知県の取組を調査することで、新たな観光需要の起爆剤とするとともに、本市のにぎわいや魅力の創出に資するため選定した。		
豊田市の現状と課題	本市では、第4次豊田市生涯スポーツプランにおいて、地域の活性化に効果的なスポーツツーリズムの取組の推進を重点取組として位置づけて取組が行われているが、新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ本市の新たな観光需要の起爆剤とすべく、さらに積極的な取組が必要である。		
視察概要	高知県の施策であるスポーツツーリズムに対する取組として高知県のスポーツ推進計画について説明を受けた。また、今後の取組として「プロスポーツのキャンプ大会の誘致」「アマチュアスポーツの大会・合宿の誘致」「サイクルツーリズムの取組強化」「地域の特性を活かしたスポーツツーリズムの推進」「高知竜馬マラソンの開催」について説明を受けた。		
評価とその理由	高知県の特性を生かした「サイクルツーリズムの取組強化」や「高知竜馬マラソンの開催」などに向けた取組について評価する。他の自治体との差別化が図られると考える。また、パスウェイシステムによる選手の発掘・育成事業は、有能な競技人材の育成に成果を出していると評価する。		
本市に反映できること	豊田市では、「豊田スタジアム」を始め、全国屈指のスポーツ施設を複数所有している。また、豊かな自然を生かしたスポーツイベントの誘致など、市の強みを活かしたスポーツツーリズムを推進したい。また、競技人材の発掘、育成については本市でも反映できると考える。		
その他 (意見・課題など)	全国的にスポーツ大会の誘致は自治体間で競争が激化している。こうした状況の中で、他者との差別化を図ることや、市が主体的に開催することの推進等を含めて、今後も取り組むべき課題として受け止めている。		

視察報告書【3】

委員会名	教育社会委員会	委員名	鈴木孝英
視察日時	令和5年7月27日（木）午前10時00分～午前11時30分		
視察先・概要	大阪府守口市 人口：141,565人 面積：12.71km ² ※人口はR5.6.1現在		
視察内容	部活動の地域移行		
選定理由	守口市では、令和3年度にスポーツ庁の委託事業「地域運動部活動推進事業」を実施し、休日に部活動に代わり地域においてスポーツに親しめる環境を構築するため、実践研究に取り組みました。本市においても令和5年度以降の全中学校における段階的な地域移行実施に向けてモデル事業を実施しているところであるが、様々な課題がある中で、守口市の取組を調査することで、本市における部活動の地域移行に対する課題の解消や地域移行の早期実現に資するため選定した。		
豊田市の現状と課題	本市でも、令和5年度以降の全中学校における段階的な地域移行実施に向けてモデル事業を実施しているところであるが、地域移行の早期実現に向けて、受入れ団体や指導者の確保などの課題への対応が必要である。		
視察概要	守口市における地域運動部活動推進事業について説明を受けた。生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現するため、令和3年度以降の取組や評価について意見交換と説明を受けた。教職員の休日部活動への関わり方、保護者の費用負担、学校との連携等について、市の考えを聞いた。		
評価とその理由	競技によって休日の部活動を実施していることから、他校の生徒同士で交流が図られること。また学校と休日部活動の運営者との間に会議体が設定されており、密に連携が図られていること。全生徒に参加させるのではなく希望者を対象とし、また参加の有無によって不利益の無いように配慮がされていることなどは評価できる。		
本市に反映できること	本市の取り組む「部活動の地域移行」の現状と類似の課題も多くあった。学校との連携の取り方や人材バンク、また指導者や運営者に対する報酬制度の確立など、豊田市にとって参考にできることも多いと考える。		
その他 (意見・課題など)	本市と類似の課題を抱える一方で、学校内に門衛が駐在し、鍵や備品の管理に大きな課題を抱えていないことや、守口市では市域がコンパクトなため、山間地における指導者の確保などについては、大きな課題を抱えていないことを感じた。こうした課題解決には豊田市の特徴に沿った方法で取り組む必要があると感じた。		

視察状況写真

1日目 7月25日（火）高知県高知市



2日目 7月26日（水）高知県



3日目 7月27日（木）大阪府守口市

